

(国語)

主体的に考え、対話を通して深い学びを導く国語科の指導
—文章を「読む力」の育成と研究—

大阪市立佃小学校 研究部

1 研究主題設定の理由

本校の児童の実態は、すべての学年が単学級のためコミュニティ範囲が固定化されており、授業中の発言者や先頭集団に偏りがみられる。経年調査の結果を分析した結果、学力の個人差が大きく、二極化がみられ、理解力や表現力にも大きな影響を及ぼしている。また、学校全体として国語科の正答率が大阪市平均に比べどの領域も低い数値がみられ、課題があることが分かった。

そこで、学力の基礎基本の力である国語力を着実に身に付けさせるために、2年間を通して国語科の授業研究を行うこととした。

2 研究の趣旨

国語で表現された内容や事柄を正確に理解する資質や能力を身に付けさせるために、どのような手立てや指導の工夫があれば「主体的で対話的な深い学び」になるか、文章を「読む」ことに焦点化した研究を実践していく。その際、本校では、文学的文章と説明的文章を中心とした教材で研究授業を進めていき、「主題から具体化した授業研究の視点」「環境を整える視点」などを研究の視点として『読む力』の育成に向けて研究を深めていくこととした。

3 研究の概要

研究の視点

(1) 研究主題から具体化した授業研究の視点

①主体的に考え：自分の考えとその根拠、理由が書けているか

- 書かせる場面が適切に選ばれているか
- 叙述をもとに根拠を書いているか

②対話を通して：書いたものをもとに交流できたか

- 交流するグループの工夫はできていたか
- ICTの有効な活用はできたか

③深い学び：深い学びに導く支援はあったか

- 板書の効果的な活用
- 児童の発表をまとめる
- 課題に導く発問はできていたか
- つまずいている児童に対する支援

環境を整える視点

①図書教材の充実

- 図書館から複数冊の本を教室へ運び、学級文庫を充実させ、いつでも本が読める教室環境を整える。
- 西淀川図書館からの団体貸し出しを計画的に行い、学期ごとに入れ替えを行う。

②朝読書や読み聞かせの実施

- 毎週金曜日の朝の15分間を朝読書の時間に設定して、本を読む時間を確保する。
- 図書館司書来校日に合わせて図書の時間を設定し、司書教諭による読み聞かせの時間を確保する。

③教室掲示の充実



○ 既習学習の内容や児童の感想、補助教材についての側面掲示を実施する。

○ 新聞記事の切り抜きを教室に掲示する。

④学習環境の工夫

○ 朝日小学生新聞デジタル for School を使用して、音読や要約など授業や家庭学習などに活用する。

○ 毎日小学生新聞や読売 KODOMO 新聞をいつでも閲覧できるよう玄関前ピロティに新聞フックを設置する。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○学習に苦手意識の強かった児童が、書くことに慣れ、結果的に意欲的に学習できるようになった。

○内容を整理して気づきをまとめ、よいところや違いなどをたくさん書くことができるようになった。

○学力経年調査で過去特に低かった「書く」「記述」の項目が、大阪市平均を上回り、子ども達を書くことに抵抗なく取り組めるようになった。

○客観的な見方や考え方で吟味する場面が増え、学びを深めたり広げたりすることができた。

○自分の意見を友達に伝え、友達の意見を聞いて新しい発見ができ、対話を繰り返しおこなうことで、自信をもって学習に参加できるようになった。

○児童が多面的な読みができるようになった。

○想像を膨らませて記述にない部分を言語化したり、たくさんの文章に出合っ文字のシャワーをあび自分の考えを表現できるようになったり、登場人物に共感して物語のその後を想像したりできるようになり、さまざまな見方や考え方をもとにした読み取りができるようになった。

○深い学びを導くことの手立てを常に意識することで、授業改善につながり、できなかったことができる喜びを、児童も指導者も感じられるようになった。

(2) 今後の課題

○学習活動の中で、書く活動の時間をしっかり確保する。

○書いたことをどのようにまとめるかを工夫する。

○時間をかけて、意見の相違点を吟味できるようにする。

○発言の固定化をさらに回避していく。

○ICT 機器の効果的な活用についてさらに工夫する。

○児童のつまづきに対する効果的な支援のさらなる工夫をする。